原著論文

女性の雑誌愛読傾向のネットワーク図化

— 女子短期大学生を対象に —

新藤 透*, 津谷 篤*, 伴 浩美**

* 山形県立米沢女子短期大学, ** 長岡技術科学大学大学院

Network Diagramming of Favorite Magazines Tendency for Women

— A Survey of Female College Students —

Toru SHINDO*, Atsushi TSUYA* and Hiromi BAN**

* Yamagata Prefectural Yonezawa Women's Junior College, 6-15-1 Torimachi, Yonezawa-shi, Yamagata 992-0025, Japan

** Graduate School of Engineering, Nagaoka University of Technology, 1603-1 Kamitomiokacho, Nagaoka-shi, Niigata 940-2188, Japan

Abstract : This paper discusses the changes of magazines which women read according to the age using figures of the network, which we got from the answers to questionnaire of women's junior college students. The link of the network expresses frequent combinations of magazines read in the same period or frequent changes of magazines which women read. This paper covers fashion magazines, comic magazines and animation magazines. At first, it is found that the combination of magazines with a similar property are read in the same period. Next, changes of magazines which women read is clarified. 51.22%, 28.66%, and 19.51% of the college students read "Chao," "Ribon," and "Nakayoshi" in their childhood, respectively. Readers of "Chao" and those of "Ribon" come to read fashion magazines or boys' comics for teenagers, and then street fashion or girly fashion magazines. "Nakayoshi" readers, however, tend to continue reading comic magazines sequentially.

Keywords : Fashion, MANGA, Magazine

1. 背景と目的

現代社会ではあらゆる情報が氾濫しており、人々は多様なメディアから情報を入手している。しかし若者には既存の雑誌メディアがいまだに強い影響力を持っていることが指摘されている。高橋によれば、若年層にとっては特に雑誌に対する関心度が高く、15～24歳の女性にとって最も関心を持っているメディアは雑誌であるという[1]。したがって若い女性の趣味・嗜好の形成にはインターネット上の新しいメディアの分析だけでは不十分であり、既存のメディアである雑誌こそ調査しなければならない領域といえる。栗田が「毎日新聞」2004年第50回学校読書調査から得た情報によると、10歳(小学4年生)から18歳(高校3年生)までの各年齢での選好雑誌頻度10位以内は『小学5年生』(学習雑誌)、『Myojo』(芸能誌)、『My birthday』(占い雑誌)、『JUNON』(芸能誌)を除いてすべてファッション誌とマンガ誌であった[2]。このことから、若い女性が愛読している雑誌の主なものとしてファッション誌とマンガ誌をあげることができる。また、近年女性とアニメ媒体の距離が非常に近くなっている。これまでアニメ分野でDVD、BDの売り上げ上位となる作品は、購買層がほとんど男性であった。しかし2013年、購買層がほぼ女性という作品が売り上げ上位10位以内に入った[3]。

そこで本研究では若い女性が身近にある雑誌として、ファッション誌、マンガ誌を、さらに時事性を考慮しアニメ

を扱うアニメ誌を対象とし、各雑誌の同時期に読まれる組み合わせとして高頻度のものを結んだネットワーク図と、ある雑誌を読み続けることを止めた後に読み始められる雑誌の組み合わせとして高頻度のものを結んだネットワーク図の作成を試みる。そしてこのネットワーク図から各雑誌間の“同時に読まれる”、“この雑誌を読んだ後の年代で愛読されるようになる”といった関係性を見ることを目的とする。これらネットワーク図は、各雑誌の感性的グループ分けや、感性的ポジションを把握することに役立つだけでなく、その女性の感性を反映した雑誌購入の推薦や、服、ファッションの推薦に利用できる可能性が高い。

2. ファッション誌、マンガ誌、アニメ誌の先行研究

雑誌の研究は、個々のジャンルの雑誌についてのみ行われてきた。東野は男女の大学生を対象にして、ファッション誌の受容を通して構成されるアイデンティティについて検討を行っている[4]。どのような雑誌を読んできたことにより、どのようなアイデンティティが形成されるのか明らかにした興味深い研究であるが、ファッション誌のみを取り上げており、マンガ誌などの他分野には特に言及はない。他のファッション誌の研究としては、若い女性が多用する「カワイイ」という表現が各女性向けのファッション誌ではどのように用いられていたのか分析を試みた四方田の研究がある[5]。ファッション誌『CUTiE』などでは「カワイイ」という言葉

は多用されることによって女性読者に幸福感を与えつかの間ではあるが彼女たちのユートピア的な夢を許す役割を担っているとしている。他に「カワイイ」とファッションとの関連については、古賀の研究がある[6]。

マンガ誌の研究は近年、研究が活発になってきており、特に少女マンガや、アニメの「魔法少女モノ」や「美少女戦士セーラームーン」に代表される「戦闘美少女モノ」の研究は代表的な学術書が相次いで刊行されており活況を呈している[7]。これらの研究では、須川や押山が代表的な研究であると思われる[8,9]。

アニメ誌では、アニメオタクの形成にビデオとアニメ雑誌がどのような影響を与えたのか社会的に検討した永田の研究がある[10]。しかし永田はアニメ誌のみ検討対象にしており、他の分野は検討していない。

このようにファッション誌、マンガ誌、アニメ誌を総合的に取り上げた研究を見いだすことはできなかったが、宮武のファッション系女子学生のファッション意識に関する調査では、ファッション誌とマンガ誌の接点が見られている[11]。ロリータファッションも扱うファッション雑誌『KERA』を愛読する「ゴスロリ系」女子が男性マンガ誌を好んで読んでいたことが指摘されている。諸橋や神田らの研究では、ファッション誌や女性コミック誌、男性コミック誌などに雑誌を区分し、それぞれを好む女性のパーソナリティを見ている[12,13]。ファッション誌、女性コミック誌、男性コミック誌を共に読むタイプの女性は「シティ情報型」と名付けられ10代、20代が8割を占めていた。

主な先行研究を概観したが、本研究では手薄であったファッション誌、マンガ誌、アニメ誌を総合的に取り上げていく。ジャンル間を越え各雑誌間の関係性をネットワーク図から読み解いていきたい。

3. 調査方法

3.1 調査方法

「女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせ」、「女性が読む雑誌の変遷」を把握するために次のような流れで2つのネットワーク図を作成した。最初に、同時期に読んでいた雑誌をハイフン(-)でまとめ、さらに、かなり前→少し前→現在というように時間の流れに沿って矢印(→)で結んでもらうことで、読んでいた雑誌の組み合わせの時間変化をアンケートで回答してもらった。(例. ②-⑤→⑦-⑨-①→③)。設問は、「あなたが過去から現在まで読んでいたことのある雑誌を回答してください。ただし、1. 回答には下記リストの雑誌と対応する番号とカッコでお答えください。2. 同時期に読んでいた雑誌はハイフン(-)で結んでください。その場合、順番はどのような順番でもかまいません。3. かなり過去に読んでいた雑誌群 → 少し過去に読んでいた雑誌群 → 現在読んでいる雑誌群のように矢印(→)で結んで、読んでいた雑誌の時間変化を表現してください。」とした(図1)。

ただ今、女性ファッション雑誌、マンガ雑誌、アニメ雑誌に関する調査を行っております。お手間をおかけしますがアンケートへのご協力よろしくをお願いいたします。

『あなたが過去から現在まで読んでいたことのある雑誌を回答してください。』

ただし、

1. 回答には下記リストの雑誌と対応する番号とカッコでお答えください。
2. 同時期に読んでいた雑誌はハイフン(-)で結んでください。その場合、順番はどのような順番でもかまいません。
3. 「かなり過去に読んでいた雑誌群 → 少し過去に読んでいた雑誌群 → 現在読んでいる雑誌群」のように矢印(→)で結んで、読んでいた雑誌の時間変化を表現してください。
4. 該当雑誌がリストに存在しないときは、直接雑誌名をお書きください。
5. ファッション誌の場合、番号は[]で、マンガ雑誌は<>で、アニメ雑誌は{}でかこんでください。(リストは裏面にもあります!)

例. 5年前、ファッション雑誌4番、アニメ雑誌8番と漫画雑誌100番を読んでいた。
2年前、ファッション雑誌15番、22番を読んでいた。
現在、マンガ雑誌75番を読んでいる。

↓

『 [4]-[8]-<100> → [15]-[22] → <75> 』

図1 使用したアンケート用紙

この調査ではアンケートで現在読んでいる雑誌だけでなく過去読んでいた雑誌も回答してもらうことにより「過去、多くの女性が同時期に読んでいた雑誌の組み合わせ」と「多くの女性が愛読してきた雑誌の変遷」の調査を可能にしている。

3.2 調査対象

調査対象は、山形県立米沢女子短期大学国語国文学科・英語英文学科・日本史学科・社会情報学科に在学している学生(18-20歳)164人(うち留学生0人)とした。ファッション誌111誌・マンガ誌188誌・アニメ誌39誌を記載した調査用紙を配布し、女性が年齢にしたがいが読む雑誌の変遷、同時期に読む雑誌の組み合わせを女子短大生を1つの事例として調査した。この結果164人全員から回答を得た。

3.3 調査時期

調査は2013年11月に行った。

4. 調査結果

4.1 「女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせ」のネットワーク図

「女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせ」のネットワーク図は、過去から現在までに同時期に読まれた雑誌の累積の共起ネットワークと考えることができる。共起とは、ある2つのことが同時に起こったり、ある2つのものが同時に出現したりすることをいう。本論文同様に共起頻度に相当する値が高いもの同士を線で結んだネットワーク図を作成している論文として松尾、吉田、吉見の研究がある[14-16]。共起頻度に相当する値としては(1)共起回数(2)Jaccard係数(3)条件確率がよく用いられるが、実際に多数となっている共起を見るために本論文では(1)共起回数をメインに(2)Jaccard係数を補助として用いることにした。

「女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせ」のネットワーク図の作成は次のような流れで行った。

女性の雑誌愛読傾向のネットワーク図化

- I. →で区切られた部分の各要素を見て「同時期に読まれていた雑誌」の回答数を数える。区切られた部分がA-B-Cというものだった場合、カウントはA-Bを+1、A-Cを+1、B-Cを+1と数える。(図2)
- II. 各○-△のカウント数を見て、カウント数上位の組み合わせを線で結ぶ(リンクさせる)。このとき各雑誌はノードとして示される。

どの程度の頻度以上の雑誌組み合わせを線で結ぶかでネットワーク図は変化する。そこで本研究のこのネットワーク図では、解釈が不可能なくらい複雑にならない程度に松尾、吉田、吉見と同様に任意で、同時期に読まれているという回答数が5回以上の雑誌同士を線で結ぶようにしきい値を定めた[14-16]。回答数が5回以上の雑誌組み合わせは共起頻度上位33位までの雑誌組み合わせであった。つまり共起頻度が上位33位以上の雑誌間に線が結ばれたことになる。ここでさらに雑誌共起に関するJaccard係数を求め、共起頻度が上位33位以上かつJaccard係数でも上位33位以上の雑誌組み合わせは赤い太線で結んだ。つまり赤い太線で結ばれている雑誌同士は共起頻度が高いだけでなく、一方が読まれている場合もう一方も読まれている傾向が強い組み合わせということになる。結果として得られた女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせを図3に示す。

前述の通り、このネットワーク図は過去から現在までに同時期に読まれた雑誌の累積の共起ネットワークと考えることができる。共起頻度から各対象の関係を示す図を作成する方法は他にも存在するが、それらに対する共起ネットワークの相違点は、以下の2つである。

- I. 共起頻度が0である、または定められたしきい値未満である対象同士は直接結びつかない

図2 女性が同時期に読む雑誌の組合せの数え方

図3 女性が同時期によく読む雑誌(しきい値5以上)

- II. 共起頻度が0である、または定められたしきい値未満であり直接結びつかない対象同士でも、他の対象を介して間接的につながっている対象同士は、直接結びつく対象同士ほどではないが、関係性が存在していると考えることができる。ただし2つの対象間に存在する他の対象の数が多ければ多いほど2つの対象の関係性は小さい

4.2 「女性が読む雑誌の変遷」のネットワーク図

この変遷のネットワーク図の方も、「女性が同時期によく読む雑誌の組み合わせ」のネットワーク図作成同様、どの程度の頻度上位の組み合わせまでを線で結ぶかは出力されたネットワーク図の乱雑さを目安として定めた。

ネットワーク図作成の方法は次の通りである。

- I. 「直前に読まれていた雑誌」と「その直後に読まれていた雑誌」の回答数を数える。グループA→グループBという回答の場合、グループAの各要素とグループB各要素の全組み合わせに+1カウントする。例えばグループA = {A1-A2-A3}、グループB = {B1-B2}だった場合、A1→B1を+1、A1→B2を+1、A2→B1を+1、A2→B2を+1、A3→B1を+1、A3→B2を+1(図4)
- II. 各○→△のカウント数を見て、カウント数上位の組み合わせを矢印で結ぶ。このとき各雑誌はノードとして示される。

結果として得られた女性が年齢に応じて読む雑誌の主な変遷を図5で示した。矢印で結ばれている雑誌同士が一方を読むのをやめた直後にもう一方を読み始めたという回答が多かったものである。このネットワーク図でも、図の複雑さが許容できる範囲に収まるように任意にしきい値を6と定め、

図4 女性が読む雑誌の変遷の数え方

図5 女性が読む雑誌の変遷（しきい値6以上）

直前-直後に読んでいるという回答数が6回以上の雑誌同士を矢印で結んだ。回答数が6回以上の雑誌組み合わせは共起頻度上位23位までの雑誌組み合わせであった。つまり共起頻度が上位23位以上の雑誌間に矢印が結ばれたことになる。ここでさらに雑誌共起に関するJaccard係数を求め、共起頻度が上位23位以上かつJaccard係数でも上位23位以上の雑誌組み合わせの矢印は赤い太線で描画した。つまり赤い太線の矢印で結ばれている雑誌同士は一方を読むのをやめた直後にもう一方を読み始められた頻度が高いだけでなく、一方を読むのをやめた直後にもう一方を読み始める傾向、または一方を読み始める直前にもう一方を読んでいた傾向が強い組み合わせということになる。

表1 ファッションごとの女性ファッション誌分類

ガーリーファッション誌
女の子らしいフェミニンなファッションを扱う。花柄ワンピース、丸襟白シャツ、丸襟ブラウス。 non-no, mina
ストリートファッション誌
青文字系雑誌とも呼ばれる。原宿を中心とするカジュアルファッションを扱う。重ね着、古着、パンツスタイル、体の線を出さない。 Zipper, KERA, mini, Soup.
フェミカジファッション誌
ガーリー系とストリート系の特徴を兼ねそろえたファッションを扱う。 SEDA, SPRiNG, CUTiE, Sweet
ギャルファッション誌
黒ギャル、白ギャル、姫ギャルなどが好む肌の露出やボディラインが強調されたセクシーさとカジュアルさを兼ねそろえたファッションを扱う。タイトなトップスにデニム、アニマル柄。 egg, Popteen, JELLY, 小悪魔ageha
ナチュラル系ファッション誌
過度な装飾は無くその代わり上質な天然素材を用いて作られたざっくりとした風合いやゆったりとしたシルエットのファッションを扱う。シンプルなシャツやブラウス、チノパンやデニム、丈の長いマキシスカート。 リンネル、ナチュリラ、クシュフル
ローティーンファッション誌
小、中学生向けのファッションを扱う。 ピチレモン、ラブベリー、nicola, Hana*chu→
ティーンファッション誌
中、高校生向けのファッションを扱う。 SEVENTEEN
モード系ファッション誌
コレクションに登場するような高級ブランドファッションを扱う。モノトーンなファッションが多い。 装苑, VOGUE, SPUR, FUDGE, NYLON
コンサバ系ファッション誌
赤文字系雑誌とも呼ばれる。主張が控えめでエレガントさや清潔感を持つお嬢さま風やOLお姉さん風ファッションを扱う。ブラウスに短め丈ジャケット、ハイウエストにベルトマーク強調されたAラインスカート。 JJ, CanCam, Ray, ViVi

4.3 補足資料

図3、図5を考察する上で参考となるファッション別女性ファッション誌分類表を表1、調査結果から雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌として回答が多かった雑誌を表2、回答に含まれている数が多かった雑誌を表3に示す。表1は扱うファッションの特徴と代表的アイテム、分類される雑誌名を示した[17, 18]。表2、表3の各雑誌はファッション誌を白、マンガ誌を縦縞（男児向けは横縞）、アニメ誌を斜め縞で区別した。得られた回答のハイフン（-）で結ばれたグループのうちの左端グループは、回答者が雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌群と解釈することができる。例えば回答が図1のように[4]-[8]-<100>→[15]-[22]→<75>だった場合雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌群は、最も過去に同時に読んでいたグループとして解釈できる回答を→で区切ったときに左端に書かれている[4]-[8]-<100>であり、この回答の回答者が雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌は、[4], [8], <100>となる。（逆に右端グループは回答者が最近読んでいる雑誌グループとなる。）このように表2の雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌はアンケート回答の左端グループから得た。

さらに参考になるものとしてアンケートに用いたマンガ誌アニメ誌リストを図6、図7に示す。

表2 雑誌を読み始めたころ読んでいた雑誌

雑誌名	回答数
ちゃお	84
りぼん	47
なかよし	32
コロコロコミック	18
ピチレモン	14
SEVENTEEN	13
週刊少年ジャンプ	13
nicola	10
ChuChu	9
ラブベリー	8
NYLON	6
non-no	5
月刊少年ジャンプ	4
週刊少年サンデー	4
アニメメディア	4

表3 回答数が多かった雑誌

雑誌名	回答数
ちゃお	88
週刊少年ジャンプ	66
non-no	54
りぼん	50
SEVENTEEN	49
なかよし	36
Soup.	33
nicola	32
Zipper	29
ピチレモン	24
コロコロコミック	21
Popteen	20
mini	19
アニメメディア	17
ラブベリー	16
Hana*chu→	15
別冊マーガレット	15
アニメージュ	15
mina	14
SEDA	14
週刊少年マガジン	14
KERA	13
ジャンプスクエア	13

女性の雑誌愛読傾向のネットワーク図化

マンガ雑誌(0～9、あいうえお順) ※「月刊、週刊、THE、ザ」の表記があるときと無いときがありまう			
<1>BE・LOVE	<35>コミック・ガンボ	<68>ビッグコミック	<98>ミステリーDX
<2>Cheese!	<36>コミックZERO-SUM	<69>ビッグコミック	<99>モーニング
<3>ChuChu	<37>コミックヴァルキリー	オリジナル	<100>もっと!
<4>Cocohana	<38>コミックガム	<70>(ビッグコミック)	<101>ヤングアニマル
<5>Comic B's-LOG	<39>コミックガンマ	スピリッツ	<102>ヤングエース
<6>Comic REX	<40>コミックチャージ	<71>(ビッグコミック)	<103>ヤングガンガン
<7>COMIC メテオ	<41>コミックトム	スベリオール	<104>ヤングキング
<8>Cookie	<42>コミックパズ	<72>ひとみ	<105>ヤングキングアワーズ
<9>FEEL YOUNG	<43>コミックハイ!	<73>びよんびよん	<106>ヤングコミック
<10>Good! アフタヌーン	<44>コミックビーム	<74>ファミ通コミッククリア	<107>ヤングチャンピオン
<11>Kiss	<45>コミックフラッパー	<75>ファミ通プロス	<108>ヤングチャンピオン烈
<12>LaLa	<46>コミックブレイド	<76>ぶーけ	<109>ヤングマガジン
<13>MANGAオールマン	MANGA	<77>プチコミック	アップス
<14>MELODY	<47>コミックボンボン	<78>ぶっくみ	<110>リイドコミック
<15>MI Chao!	<48>コミック百合姫	<79>プリンス00LD	<111>りぼん
<16>Mini	<49>コミック乱	<80>プレイコミック	<112>りぼんオリジナル
<17>Si lky	<50>コミデジ+	<81>フレッシュジャンプ	<113>花とゆめ
<18>ジャンプ	<51>コロコロコミック	<82>ぼくら	<114>近代麻雀
<19>WebコミックGENZO	<52>コンプティーク	<83>ボニータ	<115>月刊!スピリッツ
<20>Webコミックゲキッ	<53>ザ マーガレット	<84>マーガレット	<116>月刊Asuka
<21>YOU	<54>げ花とゆめ	<85>マガジンSPECIAL	<117>月刊COMIリリュウ
<22>イブニング	<55>ジャンプスクエア	<86>マガジニノ	<118>月刊6ファンタジー
<23>ウルトラジャンプ	<56>スーパージャンプ	<87>マガ・エロティクス・エフ	<119>月刊IKKI
<24>エース特選	<57>ちゃお	<88>まんが4コマぱれっと	<120>月刊アフタヌーン
<25>ガロ	<58>チャンピオンRED	<89>まんがくらぶ	<121>月刊ウィングス
<26>ガンガンONLINE	<59>チャンピオンRED いちご	<90>まんがタイム	<122>月刊エースネクスト
<27>ガンガンパワード	<60>デザート	<91>まんがタイムきらら	<123>月刊ガンガンJOKER
<28>ガンガン戦-XA-	<61>ドラゴンエイジビュア	<92>まんがタイムきらら	<124>月刊ガンガンWING
<29>ガンダムエース	<62>なかよし	フォワード	<125>月刊コミックおパンチ
<30>クラブサンデー	<63>ニュータイプエース	<93>まんがタウン	<126>月刊コミックMORA
<31>グランドジャンプ	<64>ネムキ	<94>まんがライフ	<127>月刊コミックアヴァルス
<32>ゲッサン	<65>ハルタ	<95>まんがライフWIN	<128>月刊コミックアライブ
<33>ケロロエース	<66>ビーズエース	<96>マンガ少年	<129>月刊コミックコンパ
<34>コミック アース・スター	<67>ビジネスジャンプ	<97>ミスターマガジン	<130>月刊コミックジーン

図6 アンケートに用いたマンガ誌アニメ誌リストA

<131>月刊コミックゼノン	<146>月刊マガジンZ	<161>週刊ぼくらマガジン	<176>電撃G's magazine
<132>月刊コミックドラゴン	<147>月刊ヤングジャンプ	<162>週刊ヤングサンデー	<177>電撃マオウ
<133>月刊コミックブレイド	<148>月刊ヤングマガジン	<163>週刊ヤングジャンプ	<178>電撃魔王
<134>月刊コミックブンブン	<149>月刊少年エース	<164>週刊ヤングマガジン	<179>特撮エース
<135>月刊コミックラッシュ	<150>月刊少年ガンガン	<165>週刊少年サンデー	<180>別冊フレンド
<136>月刊コミック電撃大王	<151>月刊少年ギャグ王	<166>週刊少年サンデー超	<181>別冊マーガレット
<137>月刊コンプエース	<152>月刊少年キャプテン	<167>週刊少年ジャンプ	<182>別冊花とゆめ
<138>月刊サンデー GENE-X	<153>月刊少年ジャンプ	<168>週刊少年チャンピオン	<183>別冊少女コミック
<139>月刊ステんシル	<154>月刊少年シリウス	<169>週刊少年マガジン	<184>別冊少年サンデー
<140>月刊ドラゴンエイジ	<155>月刊少年チャンピオン	<170>週刊漫画TIMES	<185>別冊少年マガジン
<141>月刊ドラゴンジュニア	<156>月刊少年マガジン	<171>少女コミック	<186>冒険王
<142>月刊ニュータイプ	<157>月刊少年ライバル	<172>少女フレンド	<187>漫画アクション
<143>月刊ビッグガンガン	<158>月刊電撃コミックガオ!	<173>少年キング	<188>漫画ゴラク
<144>月刊フラワーズ	<159>最強ジャンプ	<174>少年ブック	<189>漫画サンデー
<145>月刊プリンセス	<160>週刊コミックパンチ	<175>少年画報	

アニメ雑誌(0～9、あいうえお順) ※「月刊、週刊、THE、ザ」の表記があるときと無いときがありまう			
[1] ANIME KINEJUN	[11] アニコンスエーツ	[25] ボイスアニメージュ	[36] 絵巻道 F
[2] Charaberry's	[12] アニソンマガジン	[26] ボイスニュータイプ	(ファンロード
[3] Great Mechanics DX	[13] アニメージュ	[27] マクロスエース	→ファンロード改)
(ID Forest Mechanics)	[14] アニメーションノート	[28] メガミマガジン	[37] 別冊spoon. 20i
[4] Megami MAGAZINE	[15] アニメスタイル	クリエイターズ	[38] 萌えのーじ
(メガミマガジン)	[16] アニメディア	[29] リスアニ!	[39] 娘TYPE(ニャンタイプ)
[5] Newtype Romance	[17] オトナアニメ	[30] 月刊OUT	
[6] Newtype	[18] オトナアニメディア	[31] 女の子のための	
(ニュータイプ)	[19] オトメディア	クチュミ絵巻マ	
[7] PASH!	[20] ガンダムエース	ガジン	
(パッシュ)	[21] キャラ☆メルFabri	[32] 声優アニメディア	
[8] Quarterly pixiv	(ID「キャラ☆メル」)	[33] 声優グラプリ	
[9] S (季刊エス)	[22] コンプティーク	[34] 電撃G's magazine	
[10] S	[23] ジ・アニメ	(ID「電撃PCエンジン」)	
(季刊メールエス)	[24] プリンセスアニメージュ	[35] 電撃アニメガ	

図7 アンケートに用いたマンガ誌アニメ誌リストB

5. 考 察

5.1 「女性が同時期によく読む雑誌の変遷」のネットワーク図の考察

図3では、比較的对象読者の年齢や、ファッション誌、マンガ誌、アニメ誌と同じ特徴を持った雑誌が結びついており、それらが同時期に読まれていることが指摘できる。同じ特徴を持った雑誌が結びつきまとまった集合が6つ確認された。図8にそれらを示す。

- ・「アニメ誌集合」…『Newtype』、『アニメージュ』、『アニメディア』、『PASH!』。
- ・「ローティーンファッション誌集合」…『nicola』、『ピチレモン』、『ラブベリー』(2012年2月休刊)、『Hana*chu→』(2011年5月休刊)。
- ・「女兒マンガ誌集合」…『なかよし』、『りぼん』、『ちゃお』。
- ・「少年マンガ誌集合」…『週刊少年ジャンプ』、『週刊少年マガジン』。
- ・「20代ファッション誌集合」…『mini』、『Soup.』、『non-no』、『Zipper』、『mina』、『SEDA』、『VIVI』。
- ・「ギャルファッション誌集合」…『Popteen』、『Ranzuki』。

赤い太線で互いに結ばれている女兒マンガ誌集合、アニメ誌集合、ギャルファッション誌集合はともに読まれている傾向も強いといえる。

ここで同じ集合に属している雑誌でも線で結ばれていない雑誌について考えてみたい。「アニメ誌集合」では『Newtype』と『PASH!』のみ結びつきが確認されなかった。両誌の表紙を比較したい。両誌の表紙をgoogleの画像検索でかけると『PASH!』は一見して表紙に登場するキャラクターは男性が圧倒的に多く、『Newtype』は女性キャラクターの登場が目立った。アニメ誌表紙に登場するキャラクターはアニメ作品の主要キャラクターであることが多い。したがって『PASH!』は男性キャラクター、『Newtype』は女性キャラクターが主要キャラクターであるアニメ作品をよく取り上げていることになる。実は男性キャラクターが主要キャラクターであるアニメ作品を好む感性と、女性キャラクターが主要キャラクターであるアニメ作品を好む感性というものがある。何割かの女性アニメファンは一方の感性しか持たず、そのことが『Newtype』と『PASH!』を結びつかなかった原因なのではないだろうか。このような考え方をすると男性キャラクターが主要キャラクターであることがほとんどである『週刊少年ジャンプ』が『PASH!』と結びついていることにも説明がつく。

さらに別集合同士の『別冊マーガレット』と、ナチュラル寄りのストリートファッション誌である『Soup.』のみ結びついている点に着目したい。『別冊マーガレット』の掲載作品は、学園恋愛モノが多く「比較的保守的な内容で地味目の女の子のさわやかな願望が詰まっている感じ」な作品が多く[19]、『Soup.』も過度なおしゃれをしない女子に好まれる地味目な

図8 種類別に区分した女性が同時期によく読む雑誌組み合わせ

傾向がある。地味な感性を持つ多くの回答者に共に読まれることで『Soup.』と『別冊マーガレット』は結びついたのではないだろうか。

ローティーンファッション誌において結びついている『ラブベリー』と『ピチレモン』はナルミヤインターナショナルというアパレルブランドの洋服をよく取り上げているという共通点がある。

5.2 「女性が読む雑誌の変遷」のネットワーク図の考察

図9は図5に一部グループ分けを示した雑誌の変遷図である。図9の矢印の方向と、表2の初めて読んだ雑誌として『なかよし』、『りぼん』、『ちゃお』の回答数が上位3位を占めそれぞれの回答率が19.51%、28.66%、51.22%であることから、アンケートに回答した女子短大生は『なかよし』、『りぼん』、『ちゃお』という女児マンガ誌から雑誌というものを読み初めた者が多く、以後読む雑誌を変えていったということがわかる。そして女児マンガ誌愛読の直後は少年マンガ誌である『週刊少年ジャンプ』、ローティーン向けファッション誌の『nicola』、ティーン向けファッション誌の『SEVENTEEN』が主な愛読雑誌となっている。他に図9から見て取れる女児マンガ誌の次の愛読雑誌としては少女マンガ誌『マーガレット』があるが、『マーガレット』は『りぼん』のみから矢印が結ばれており表3でも回答数上位のものとして表れていない。つまり女性は一般的に女児マンガ誌から雑誌を読み初め、早々にファッション誌、少年マンガ誌を読むようになり、少女向けといった女性向けマンガ誌のみを読みふける期間というものはないと考えられる。

女性は成長すると愛読雑誌が少年マンガ誌に変遷することは高橋の研究でも言及されており、普遍的なものである可能性が高い[1]。しかし、なぜ女性は少年マンガを好むのだろうか。この点についてアンケートに応じてくれた複数の女子短大生に聞き取り調査を行った。それらの意見をまとめると「少女マンガ誌の作品は恋愛要素が多く内容もどれも似通っ

たものばかりであり、その点少年マンガ誌の作品は多彩な内容のものが多く、物語も少女マンガに比較して奥行きがある。また、少年マンガの登場人物は少年が多く、少年同士の友情やきずなが描かれており、自分たちにはない「男の世界」をかいま見てみたいからだ」という回答を得た。これはやおいマンガが少女になぜ受容されるのかを研究した山田も同様の指摘をしており、山田は思春期における女性性の否定、少年の世界へのせん望がその理由としている[20]。この点は慎重な検討が今後必要であるとを感じるが、こういった要因で女性は女児マンガから少年マンガへと変遷すると思われる。さらに具体的に図9を見ていきたい。図9では二つの分岐点を確認できた。

1つ目は女児マンガ誌である。女児マンガ誌から出る矢印を見ると『ちゃお』からはファッション誌（『non-no』、『SEVENTEEN』、『nicola』）、『週刊少年ジャンプ』に変遷し、『りぼん』はそれに加え『マーガレット』へ変遷した。『なかよし』からは『週刊少年ジャンプ』のみにしか変遷していなかった。そこで、さらに細かく結果を見るためにネットワーク図に現れないデータのうち変遷数4以上の変遷を見ると、『ちゃお』と『りぼん』はファッション誌やマンガ誌への変遷が確認できたが『なかよし』からは『週刊少年ジャンプ』（10人）以外は、『LaLa』（4人）、『マーガレット』（4人）とマンガ誌にしか変遷していなかった。つまり『ちゃお』、『りぼん』の読者は長じてファッションに興味を持つ者が多いが、『なかよし』の読者は引き続きマンガ誌を読み続ける特徴が見いだせる。『なかよし』に掲載されているマンガの特徴としてファンタジー色が強いことが指摘できる。例えば「美少女戦士セーラームーン」、「カードキャプターさくら」、「怪盗セイントテール」など、主人公の少女が変身して「悪の組織」と戦う非日常な物語を扱った作品が多い事も指摘できよう。『なかよし』の読者が次に読んでいる女性マンガ雑誌は『LaLa』であり、この雑誌も「夏目友人帖」、「会長はメイド様!」、「図書館戦争 LOVE & WAR」などが連載さ

女性の雑誌愛読傾向のネットワーク図化

図9 種類別に区分した女性が読む雑誌の変遷

れており、これらの作品も非日常的な内容でファンタジー色が強いものとなっている。どちらのマンガ誌もファンタジー要素を持つ作品が多く掲載されておりファンタジーを求める感性を持つ読者が『なかよし』から『LaLa』へ自然に移行したのではないかとされる。また『なかよし』からファッション誌へ変遷する事例は今回の調査ではまれであったが、前述した宮武の研究では、『なかよし』読者は長じてファッションに興味を持つとゴスロリ系を好むと指摘されている[11]。ゴスロリ系ファッションも非現実的なファンタジー要素を多分に含んだものであるため、『なかよし』の作品傾向と一致しており、関連性があるとみられる。

2つ目はローティーンファッション誌に分岐がみられる。図9で「ローティーンファッション誌A」で示した『nicola』、『Hana*chu→』、『ピチレモン』は『SEVENTEEN』に変遷しているのに対して、「ローティーンファッション誌B」で示した『ラブベリー』は『Popteen』にのみ変遷が確認された。『ラブベリー』は「やんちゃ」、「色づかいが派手」、「モテを意識しない」、「ヘアメイク企画が多い」という特徴があり、それがギャル志向と合っていることから、ギャル感性を持つ読者が同じくギャル志向が強い『Popteen』に、移行したのではないかと考えられる[21]。

他に図9で気づく点としては『SEVENTEEN』が「ハブ」的な役割を果たしていることがあげられる。『SEVENTEEN』に変遷するのは女兒マンガ誌、ローティーンファッション誌（『nicola』、『Hana*chu→』、『ピチレモン』）で、『SEVENTEEN』から変遷する雑誌は『Zipper』、『Soup.』、『mini』などのストリートファッション誌、ガーリーファッション誌の『non-no』、フェミカジファッション誌の『SEDA』、少年マンガ誌である『週刊少年ジャンプ』であった。非常に多くの両方向の矢印が集中していることから、『SEVENTEEN』は最も多くの変遷に関わっている雑誌といえる。先に指摘した『なかよし』や『ラブベリー』の読者は早くから特殊な雑誌読書歴を経ることになるが、多数の女子短大生は『SEVENTEEN』を読ん

図10 『SEVENTEEN』の変遷元と変遷先

でおり、それを中継してその後多様なファッション誌を読んでいるといえる（図10）。『SEVENTEEN』は1度は手に取るような「基本」的なファッション誌であることがいえる。

6. ま と め

女子短大生へのアンケートからネットワーク図を作成し、これを1つの事例として、この年代の女性が年齢にしたがい読む雑誌の変遷、同時期に読む雑誌の組み合わせをファッション誌、マンガ誌、アニメ誌を網羅して見てきた。

まず同時期に読む雑誌の組み合わせからは、類似した性質を持つ雑誌が同時に読まれやすい傾向があったことが分かった。

次にこの年代の女性が年齢にしたがって読む雑誌の変遷が明らかになった。幼少期は『ちゃお』、『りぼん』、『なかよし』のいずれかの女兒マンガ誌を愛読しているが、『なかよし』読者は引き続きマンガ誌を好む傾向があり、他の2誌の読者は年齢が進むとティーン向けのファッション誌や少年マンガ誌を手に取るようになり、さらに長じるとストリートファッ

図11 女性の年齢にともなう読む雑誌の典型的な変遷

ション誌やガーリーファッション誌、フェミカジファッション誌など、自分の興味があるファッションに特化した雑誌を読むようになっていくことが分かった(図11)。また『ラブベリー』を読んでいた女性は、長じてギャル要素の強いファッション誌『Popteen』を愛読する傾向が高いことから、『ラブベリー』読者は「ギャル」の「予備軍」的な位置づけであったといえよう。

さらに『SEVENTEEN』は、女児マンガ誌、ローティーンファッション誌読者の多くが1度は手に取り、それを中継して様々なジャンルのファッション誌へと変遷していることから「ハブ雑誌」とでも呼ぶべき役割を担っていることが指摘できる。

本研究の結果は2013年の時点での短大生のアンケート回答から得た結果であるが、この結果は他の一般女性、特に同年代の女性と多くの共通点があると考えられる。

今回はアンケート調査に兄弟姉妹、または友人や恋人の存在がどのように変遷に影響しているのか質問をしていないため影響関係は不明である。今後の課題としたい。

さらにより上の年代の回答者へのアンケート実施により、20代以降女性をターゲットとした雑誌の同時愛読傾向、20代以降女性の雑誌変遷もデータとして加えたい。

謝 辞

アニメ雑誌選定について、山形県立米沢女子短期大学社会情報学科小池隆太准教授には、多大なご教示を賜りました。

また、四国大学文学部日本文学科中林幸子専任講師にはファッション誌の先行研究について一部ご教示を頂戴しました。両氏には記して謝意を表します。

参 考 文 献

- [1] 高橋延昌：雑誌メディアに対する短大生の読書傾向，会津大学短期大学部研究年報，64，pp.2-8，2007。
- [2] 栗田宣義：女性ファッション誌研究における新方法論，ソシオロジスト，8，pp.49-87，武蔵大学社会学部，2006。
- [3] 「アニメDVD・BD売り上げ一覧まとめWiki」，<http://www38.atwiki.jp/url-archive/pages/176.html>，2014.7.28閲覧。
- [4] 東野充成：ファッション誌の受容と青少年のアイデンティティ構成，九州大学大学院教育学コース院生論文集，3，pp.31-48，2003。
- [5] 四方田犬彦：「かわいい」論，ちくま新書，2006。
- [6] 古賀令子：「かわいい」の帝国，青土社，2009。
- [7] 佐々木隆：オタク文化論，イーコン，2012。
- [8] 須川亜紀子：少女と魔法，NTT出版，2013。
- [9] 押山美智子：増補版少女マンガジェンダー表象論，彩流社，2013。
- [10] 永田大輔：「アニメおたく／オタク」の形成におけるビデオとアニメ雑誌の「かかわり」，社会学ジャーナル，36，pp.59-79，2011。
- [11] 宮武恵子：消費者インサイトと感性工学，感性工学，11(4)，pp.218-222，2013。
- [12] 諸橋泰樹：ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方，現代書館，pp.77-79，2002。
- [13] 神田道子，井上輝子，村松泰子，鈴木みどり，大山七穂，竹内希衣子，諸橋泰樹，他1名：マスメディア文化と女性に関する調査研究，東京都生活文化局婦人問題に関する研究報告書，pp.18-33，pp.70-123，1986。
- [14] 松尾豊，友部博教，橋田浩一，中島秀之，石塚満：Web上の情報からの人間関係ネットワークの抽出，人工知能学会論文誌，20(1E)，pp.46-56，2005。
- [15] 吉田知訓，間瀬心博，北村泰彦：質問応答Webサイトからの関連語ネットワークの自動抽出，電子情報通信学会技術研究報告，AI，人工知能と知識処理，108(119)，pp.75-80，2008。
- [16] 吉見憲二，樋口清秀：共起ネットワーク分析を用いた訳あり市場の考察－「カニ」と「ミカン」のユーザーレビューを題材として－，GITS/GITI Research Bulletin，早稲田大学大学院国際情報通信研究科国際情報通信研究センター，Vol.2011-2012，pp.31-39，2012。
- [17] 広島市立大学国際学部井上ゼミ：女性ファッション誌 Analysis，<http://intl.hiroshima-cu.ac.jp/modules/intl/professor/pdf/inoue2007.pdf>，2015.5.11閲覧。
- [18] アンジー：Moewrs1「ムール1号」女性ファッション徹底研究，幻冬舎，2011。
- [19] 少女マンガ雑誌傾向と対策 暫定版ver0.93，<http://www2s.biglobe.ne.jp/~tetsu/magazin.html>，2014.3.6閲覧。
- [20] 山田田鶴子：少女マンガにおけるホモセクシュアリティ，ワイズ出版，2007。
- [21] cyzo woman 女性誌速攻レビュー特別編・ティーン誌解剖 第3回ラブベリーはギャル予備軍誌!? 派手さと友情をモテより重視，http://www.cyzowoman.com/2010/05/post_1820.html，2015.3.10閲覧。

女性の雑誌愛読傾向のネットワーク図化

新藤 透（非会員）

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。学術博士。現在、山形県立米沢女子短期大学准教授。短大では司書、司書教諭課程を担当。専攻は図書館情報学、歴史学。本来の研究テーマは、図書館や書籍

をめぐる近世・近現代の書誌学的・文化史的研究であるが、現代のサブカルチャー領域の受容層の研究も行っている。情報メディア学会理事・編集委員長。

津谷 篤（正会員）

山形大学大学院理工学研究科システム情報工学専攻博士後期課程修了。工学博士。現在、山形県立米沢女子短期大学非常勤講師、山形大学大学院理工学研究科研究員。日本感性工学会、日本知能情報ファジィ学会各会員。

組み合わせ最適化、感性評定、ネットワーク分析の応用研究に従事。

伴 浩美（正会員）

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科複合領域科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。文学修士。2014年4月より長岡技術科学大学大学院工学研究科教授。これまで英文観光情報、村上春樹作品英訳版などの計量言語

学的分析を行っている。電子情報通信学会、日本設備管理学会、日本教育心理学会各会員。日本感性工学会編集委員、日本知能情報ファジィ学会理事・会誌編集委員。